

公益財団法人
日本中国国際教育交流協会

【2023年度の歩み 会報第30号】



2024年3月発行

目 次

■巻頭言 公益財団法人日本中国国際教育交流協会 代表理事 中村武志	2
■日中平和友好条約締結45周年記念メッセージ	3
■教育交流事業	6
□教育交流・派遣事業	6
□教育交流・受入事業	6
□教育交流・支援事業	6
◇河北省保定市阜平县音楽教育支援 2023年度教育支援に関する協定書	
□教育交流・研究等助成事業	9
◇第6回日中教育文化交流シンポジウム	
◇第19回中国人の日本語作文コンクール 教育賞受賞作品	
テーマ① 先人たちに学ぼう—日中平和友好条約の今日的な意味 「日中平和友好条約」 —その木の成長と未来— 張 芬 (天津外国語大学)	11
テーマ④ 特設テーマ、日中の友好都市交流について考える～滋賀県と湖南省をモデルに～ 「日中友好こそ世界平和の礎」 —洞庭湖と琵琶湖の深遠な絆— 洪 健洋 (東華理工大学長江学院)	12
■機関関係	14
(1) 2022 (令和4) 年度事業・会議報告	14
(2) 2022 (令和4) 年度事業報告	14
(3) 2023 (令和5) 年度事業計画	16
(4) 2023 (令和5) 年度収支予算書	18
(4) 2023 (令和5) 年度役員・評議員名簿	20
■協会の歩み	21
■編集後記	表紙3

■表紙写真

第6回日中教育文化交流シンポジウム

巻頭言



公益財団法人日本中国国際教育交流協会
代表理事 中村 武志

公益財団法人日本中国国際教育交流協会に対しまして、日頃より多くの方々から励ましやご支援を賜っておりますこと、心から御礼申し上げます。

新型コロナウイルスは昨年「5類」に移行しました。社会の空気も「コロナ禍」からようやく脱し、人々の国境を越えた往来も以前の状態に戻りつつあるようです。しかし、日本から中国への渡航についてはビザ等の関係から「原状回復」とはいかず、教育視察団等、計画していた事業のいくつかは本年度も実施できませんでした。残念でなりません。

一方、今年も宋慶齡基金会との協定に基づき保定市阜平県に「教育支援金」をお届けできました。また、昨年に引き続き開催した「日中教育文化交流シンポジウム」では、長年中国の学生や留学生支援に尽力されている方々のお話をもとに、現場レベルの教育交流の現時点での到達点を確認しあうとともに、「第19回中国人の作文コンクール」に入賞された現役中国大学生のお話から、これからの教育交流の姿を展望しあうことができました。これからも、多くの方々からご理解とご支援を賜りながら、今できることをまずは確実にやり遂げるとともに、懸案の教育視察団派遣に向け知恵を絞っていきたいと考えます。

さて、昨年は日中平和友好条約締結45周年の節目の年でした。この間さまざまなことがありましたが、「両国人民が友好的に往来をすすめればこの危機を阻止することができる」という、東西冷戦の真っ最中に周恩来首相が語った言葉を実践する形で日中の友好は積み上げられてきたと思いますし、日中関係の未来もこの「友好的往来」によって拓かれていくのだと思います。

当協会は小さな団体ですが、この「友好的往来」に関与する資格はあります。だからこそ、ちがいを認め合う「勇気と覚悟としなやかさ」を糧に、議論と学習を重ね、子どもを中心にした教育交流の具体化に努めていきたいと考えます。「戦乱と分断」ではなく「平和と協調」の世界であるためにも……。

最後になりましたが、今後とも、多くの教育関係団体・都道府県教育関係者の方々の一層のご支援を賜りますことを深甚よりお願い申し上げます。

中国宋庆齡基金会

贺 信

公益財団法人日本中国国際教育交流協会：

今年是中日和平友好条約締結45周年。习近平主席在会见日本首相岸田文雄时指出，条約以法律形式确立了中日和平、友好、合作的大方向，成为两国关系史上的里程碑。45年来，两国关系尽管历经风雨，但总体保持发展势头，给两国人民带来福祉，为促进地区和平、发展、繁荣发挥了积极作用。

衷心感谢贵会长期以来对我会工作的大力支持。多年来，贵我两会携手关注青少年文化教育领域，发挥各自特色优势，积极开展公益合作，用音乐搭建起中日友好交流的桥梁。

志合者，不以山海为远。以纪念中日和平友好条約締結45周年为契机，我会愿继续与贵会一道，在文化教育等领域进一步加强交流与合作，为中日民间友好注入新的活力，为构建契合新时代要求的中日友好关系作出积极贡献。

真诚祝愿日本中国国際教育交流協会各项事业蓬勃发展！



賀状

公益財団法人日本中国国際教育交流協会 御中

今年は中日平和友好条約締結 45 周年です。習近平国家主席は岸田文雄首相と会見する際に、条約は法的形式で中日平和・友好・協力という大きな方向を確立し、両国関係の歴史における一里塚となったと表明しました。この 45 年来、両国関係は雨風を凌いできましたが、全体として発展の勢いを保ち、両国国民に福祉をもたらし、地域の平和・発展・繁栄を促進することに積極的な役割を果たしました。

貴会は長期にわたって弊会の活動に多大なるご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。長年の間、貴会と弊会は手を携えて青少年文化教育の分野に関心を寄せ、各自の特色と強みを発揮し、公益協力を積極的に展開し、音楽で中日友好交流の架け橋を築いてきました。

「志を同じくする者は、たとえ山海を隔てていてもそれを遠いと思わない」。中日平和友好条約締結 45 周年を記念することをきっかけに、弊会は引き続き貴会と共に、文化教育などの分野における交流と協力を更に強化し、中日民間友好に新たな活力を注ぎ、新時代の要請に適う中日友好関係を構築することに積極的に貢献していきたく存じます。

未筆ではございますが、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

中国宋慶齡基金会

2023 年 12 月 5 日

祝辞

1972 年 9 月 27 日に発出された日中共同声明のもと、両国間の平和友好関係をさらに強固に発展させるために、1978 年 8 月 12 日に、両国間で平和友好条約が締結されました。本年は、両国間のゆるぎない平和友好の誓いである、日中平和友好条約締結から 45 周年となる記念すべき年となります。あの日から今日まで、両国は「永遠の隣人」として、その関係を発展させてきました。お互いの立場を尊重し、経済・文化を中心とした交流を深めることにより、大きな成果を上げてきました。両国の友好関係は、両国国民の幸福をもたらすだけでなく、世界の平和をも推進してきました。日中平和友好条約締結 45 周年の祝賀にあたり、平和友好の誓いを新たにするとともに、両国の未来が明るく希望に満ちたものとなるよう、心から祈念しています。

貴中国宋慶齡基金会に置かれましては、我が日本中国国際教育交流協会との共同プロジェクトの推進に、誠意あるご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。貴中国宋慶齡基金会との取り組みによって、教育交流派遣・支援・受入事業が実施され、民間レベルの地についた教育交流を、より深くまた多様に発展させることができました。規模としては小さなものかも知れませんが、子ども・学校を中心にした意義ある実践交流を行っていると確信しています。今後も、教育交流の目的を忘れることなく、互いに学び合い、子どもたちの未来につながる取り組みを進めて行きたいと考えています。また、教育交流を通す中で、より良い両国関係の明日を築くために、力を尽くして行きたいと思っています。貴中国宋慶齡基金会との共同プロジェクトを、さらに充実・発展させていけますよう祈念し、日中平和友好条約締結 45 周年に当たり、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

2023 年 11 月 13 日

中国宋慶齡基金会 様

公益財団法人
日本中国国際教育交流協会



教育交流事業

中国宋慶齡基金会との「新たな教育交流プロジェクト」の推進確認のもとに、2021年度からの5か年計画として、河北省保定市阜平县における取り組みの推進を行いました。教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる草の根教育交流をより深く、多様に発展させることを目指して計画を進めました。2023年度には、「視察研修訪中団」の派遣、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れ準備と、「第5回音楽教育交流会」の実施等の取り組みを進める予定でした。しかしながら、新型コロナ禍の影響が長引く等の中で、実際に中国を訪問することもできず、宋慶齡基金会とのリモートによる協議の中で、やっと教育交流支援事業だけを実施しました。また、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪をも広げてきた、「第9回教育交流ホームステイ」事業についても、コロナ禍の影響が残る中で、残念ながら実施を見送らざるを得ませんでした。さらに、今年度こそは実施したいと考えていた、「田中一郎記念奨学基金」による、主に東南アジアからの留学生を対象とした、「留学生による日本語作文コンクール」は、対象が絞り切れず、また実施方法が確立できず、これまた残念ながら実施までこぎつけられませんでした。しかしながら、「第6回教育文化交流シンポジウム」の開催については、第5回シンポジウムの「日中教育交流の意義について、協会の今までの取り組みの検証も踏まえて考えよう」をさらに発展させる形で、教育関係者を対象に実施しました。「第19回中国人の日本語作文コンクール」については、例年通り後援という形で参加し、作品の審査と「教育賞」受賞者の選定を行いました。また、リモートによる「第6回日中ユースフォーラム」にもコメント・討論者として参加しました。

□ 教育交流・派遣事業

昨年度、中国宋慶齡基金会との協議の結果、「新たな教育交流プロジェクト」実施地に決定した河北省保定市阜平县で行う計画でした。しかし、残念ながら訪中することは現実に無理な状況の中で、「事務局訪中」「視察研修訪中団」の実施ともできませんでした。次年度は、何とか派遣事業を実施したいと考えています。

□ 教育交流・受入事業

「新たな教育交流プロジェクト」の実施計画については考えていましたが、残念ながら交流の内容が具体化できませんでした。しかしながら、宋慶齡基金会を通しての阜平县との確認では、今まで易県や東平县で行い実績を上げてきた音楽教育を中心とする教育交流をする中で、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れについて検討していくことになりました。

□ 教育交流・支援事業

◇ 河北省保定市阜平县音楽教育支援

新たな「教育交流プロジェクト」の初年度として、河北省保定市阜平县への音楽教育支援を行いました。支援の規模としては、過去の取り組みと同じように、100万円/年で行っていくこととしました。

(1) 2023年度教育支援に関する協定書

協定書

宋基金会法字(2023)215号

甲方:公益財団法人日本中国国際教育交流協会

法定代表者:中村武志

連絡先:赤岡直人

電話番号:0081-55-269-6533

メールアドレス:info@ajciee.or.jp

住所:400-0031 日本国山梨県甲府市丸の内 2-32-16

甲府丸の内マンション 302

乙方:中国宋慶齡基金会

法定代表者:李安晋

連絡先:王璐璐

電話番号:0086-10-86601945

メールアドレス:wangll@sclf.org

住所:中華人民共和国北京市東城区東安門大街 82 号院

甲方公益財団法人日本中国国際教育交流協会と乙方中国宋慶齡基金会は、日中両国の友好のため、特に中国で経済発展途上地域の学校教育条件を改善し、またより多くの子どもに教育を受ける機会を提供するため、今後共同の活動領域において互いに協力していくことで合意した。こうした目的を達成するため、以下の協定を結ぶ。

第一条(目的及び用途)

甲方は、中国河北省保定市阜平县の学校に対する音楽教育支援を乙方を通して行う。これによって音楽教育環境を改善し、水準を向上させる。



第6回日中教育文化交流シンポジウム(教育交流 研究等助成事業)

今年度は、2022年度「第5回日中教育文化交流シンポジウム」の研修会的な要素を持った形式を生かす内容で行いました。日中教育文化交流に長年に渡って携わってこられ、さらに当協会の活動との関わりが深い方々からのお話を伺うという形のシンポジウムとして実施しました。また、以前行っていた「日本語作文コンクール」とのコラボレーションという形も上手く取り入れました。このシンポジウムを通して「日中教育文化交流の意義」についてより深く検証し、今後日中教育文化交流の歴史や現状その意義、そして今後の展望や課題に焦点を当てたシンポジウムとして実施しました。



(1) 第6回日中教育文化交流シンポジウム実施要項

- 1 実施目的 ○日中国際教育交流協会と関わりのある団体の責任者の話を通し、日中教育交流の意義についての理解を深め、今後の取り組みの在り方について考える機会とする。
- 2 実施日時 2024年2月29日(木) 14:00~17:00
- 3 実施場所 日本教育会館9階第五会議室
- 4 参加者 ・協会顧問・理事・評議員・公益事業審査委員・会員・団体会員(計59名)
- 5 コーディネーター・シンポジスト
 - ・コーディネーター
中村 武志 (協会代表理事・前三重県教職員組合執行委員長)
 - ・シンポジスト
山中 小白氏 (協会評議員・フジ国際語学院代表者・上海大学東京校理事長・北京市出身)
段 躍中氏 (日本僑報社代表・日中交流研究所所長・湖南省出身)
趙 志琳氏 (第19回中国人の日本語作文コンクール最優秀賞・吉林大学)
- 6 日 程 シンポジウム
 - 13:30 開場・受付
 - 14:00 開会 司会 赤岡直人(協会業務執行理事)
代表理事挨拶 中村武志
顧問挨拶 奥石 東(元参議院副議長)
 - 14:10 ①交流シンポジウムの方向付け(中村コーディネーター)
②基調意見発表(山中・段・趙シンポジスト)各自約30分
③意見交換(参加者)
④総括(中村コーディネーター)
※途中休憩を取ります。
 - 17:00 閉会
- 7 備 考 ・参加要請 協会顧問(2名)・理事(7名)・監事(2名)・評議員(8名)・公益事業審査委員(3名)・団体会員(2×18=36名)・事務局(1名)計59名
(あらかじめ出欠の確認を、返信用はがきで行います。)
・旅 費 所属団体所在地(個人は現住所)からの交通費を支給します。
・そ の 他 コロナウィルス・インフルエンザ感染等の状況によっては、中止等の事態も考えられます。開催の有無については、できるだけ速やかに判断し、連絡します。

第二条(送金及び報告)

1. 2023年、甲方は中国河北省保定市阜平県の職業技術教育にかかわる音楽教育条件・教育レベルを改善するために100万円を送金する。
2. 甲方は2023年12月30日前に100万日本円を乙方の指定口座に振り込む。乙方は振込を受け次第、100万日本円を河北省保定市阜平県教育体育局に送り、当地職業技術教育の振興に使う。
3. 乙方は2024年6月30日までに、実施報告(具体的プロジェクトの実施内容、決算を含む)を甲方に提出する。

双方は以上の協定に同意し、この協定を日本語版と中国語版とし、双方の代表が署名捺印の上、日本語版と中国語版をそれぞれ一部ずつ保存するものとする。

甲方(捺印):
法定代表人或いは授權代理人
(サイン):

中村武志
2023年11月9日



乙方(捺印):
法定代表人或いは授權代理人
(サイン):

2023年12月5日



(2) シンポジウム内容報告

今回も、シンポジストの3名の方々には、それぞれの立場から沢山の示唆をいただきました。

山中小白さんからは、日本へ来た経緯から始まり、日本で暮らしながら感じている、「中国と日本両国に対する愛」についてお話がありました。そして、「人と人の関わりの中で人は育つまた両国の関係も深まっていく」と話され、山中さんが代表を務めるフジ国際語学院と、理事長を務める上海大学東京校の学生等の様子について、多くの具体的なお話をいただきました。そして、そういった観点にたつて見つめたとき、日中国際教育交流協会の活動は大いに意味があると指摘されました。特にホームステイの取り組み、シンポジウムの開催は、日中の民間レベルの交流として、大いに成果が上がっていると話されました。

段躍中さんからは、日本へ来た経過に続けて、日本への好印象を決定づけたエピソードのいくつかが話されました。「日本が大好きになり、ここで自分の人生をやりぬこう」と決意したことを話してくれました。そして、何よりも日本と中国の間の民間交流が大切だと思い、「中国人の日本語作文コンクール」「日本人の中国滞在エピソード作文コンクール」「交流の広場」などの取り組みを実践し、大いに成果を上げているという具体的なお話がありました。日中国際教育交流協会は、一貫して「中国人の日本語作文コンクール」の後援をし、さらに「日中教育文化交流シンポジウム」にもつなげ意義ある活動をしていることも話されました。

趙志琳さんからは、日本文学・古典に出会い、日本に興味を持ったことから、大学は日本語学科に進んだこと、そして大学の先生に「中国人の日本語作文コンクール」への応募を進められ、前回3等賞、そして今回最優秀賞を受賞したという経過が話されました。受賞作「囲碁の知恵を日中交流に生かそう」の発表を通して、今後の日中交流について、相手を理解するために言葉、そして歴史や文化の交流、コミュニケーション活動が大切だという話をうかがいました。今後の両国関係について、周恩来総理の言葉、「求道存異=小異を残して大同につく」についても触れ、日中関係の安定化が世界の安定化にもつながるとも話してくれました。

シンポジストのお話の後、参加者からの質問・意見・感想等を受け、大いにシンポジウムの中身を深めることができました。日中教育文化交流を民間レベルで続けることの意義が、そして当協会の活動の必要性が、全体を通して確認できました。



第19回中国人の日本語作文コンクール (教育交流 研究等助成事業)

2023年度第19回中国人の日本語作文コンクール(日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛)には、中国のほぼ全土にわたる28省市自治区の大学や大学院、専門学校、高校、中学校など155校から、2376本もの多くの作品が寄せられました。特筆すべき点としては、今回初めて香港地域の中学生から応募があったことです。これはコンクール史上初めてのことで、参加者の地域がより広がりました。また、昨年に引き続き中学校、高校および専門学校の応募数が20校を超えました。低年齢の応募が活発になってきました。

第19回のテーマのコンセプトは、日中平和友好条約締結45周年を記念し、「日中平和友好条約締結45周年を思う」とし、それに沿ってテーマを①先人たちに学ぼう—日中平和友好条約の今日的な意味、②ポストコロナ時代の日中交流—私の体験と提言、③日本語と私—指導教師への「ありがとう」、④日中の友好都市交流について考える—滋賀県と湖南省をモデルに—(特設テーマ)の四つにしました。テーマごとの応募数は、①867本、②796本、③613本、④100本となりました。1次から4次までの審査を行う中で、最終的に、最優秀賞(日本大使賞)1名、1等賞5名、2等賞15名、3等賞40名、佳作賞275名となりました。

★教育賞・日中国際教育交流協会賞(5万円相当)

張 芬 (天津外国語大学)
洪 健洋 (東華理工大学長江学院)

(1) 教育賞受賞作品

テーマ① 先人たちに学ぼう—日中平和友好条約の今日的な意味

「日中平和友好条約」—その木の成長と未来—

張 芬 (天津外国語大学)

ネット上では「中日交流なんていらないよ」というような独り善がりな意見をたまに目にする。このような過激な発言を目にするたびに「こいつら、ほんまに何も分かってないわ」と言いたい気持ちになった。そのような発言は、先人たちの努力を裏切るものだと感じるからだ。現代の中日両国の友好交流は1978年「日中平和友好条約」の批准書交換から始まったといわれる。「日中平和友好条約」の締結は、当時、鄧小平氏、周恩来氏を中心とした中日関係の改善に努めた先人たちが力を尽くし、6年にわたる努力の末、山のような困難を乗り越えて得た成果である。

「日中平和友好条約」は中日友好関係の種であり、両国交流の初心ともいえるものだ。1978年、両国が力を合わせてこの種を蒔いた。そして、その後も両国それぞれがその成長に必要な水と肥料をやり続け、その木は両国人民と政府の思いを受けつつ成長してきた。45年経った今、その木はすでに大木になっている。そのおかげで、ビジネスの連携や多分野の技術のシェアのような国レベルの



交流だけでなく、両国の国民もまるでこの木に登り国境を越えるように、お互いの文化を楽しみ、その国の風景を鑑賞できるようになってきた。日中平和友好条約締結45周年となる今年2023年、我々はどのように先人たちの志を継ぎ、「日中平和友好条約」に基づき中日関係を一層発展させるかが課題となっている。

私は、日本語を専攻する前、日本については日本のアニメについて少し知っている程度で、たまにドラマを見ると中国の生活との違いを感じ、不思議な感じがしていた。しかし、日本語の勉強をしていくうちに、日本人の礼儀正しさ、他人への配慮から、バラエティーのボケとツッコミのような面白いところまで、様々な日本の文化を知るようになった。日本語を勉強すればするほど、以前受け入れられないと感じていた日本人の行為も、「なるほど」と思うようになった。そうしているうちに、中日両国の国民がお互いへの認識が足りないことによって生じた乗り越え難い壁の存在に気づいた。このような個人の偏見という壁が高くなれば、国と国との交流にも壁ができてしまう。では、この壁をどうすれば乗り越えられるのだろうか。私が憧れているドキュメンタリー監督の竹内亮さんは『竹内亮ドキュメンタリーウィーク』を赤字でもやりたい理由について、日本では視聴率のため中国についてのマイナスの内容の報道が多すぎるため、中国の面白い一面も日本人に伝えたいと述べた。これはいい手本ではないか。私たちはそれほど大きなことはできないかもしれないが、小さなことならできる。相手国の文化を専攻している私のような大学生は両国のかけ橋の役割を担うことができる、いわば両国が育てたその木の葉だと思う。風が吹くと異国を含め、各地に舞い降りる。この木の葉は枯れ葉ではなく、生気を富む木の葉だ。舞い降りた地域の人々に様々なことが伝えることができる。この作文コンクールもその点で大きな役割を担っている。それに積極的に参加している我々学生たちもこの木に肥料をやっていることになるのではないだろうか。今回のテーマのような作品を今後さらに書き、様々な場所に投稿したい。また、文章だけでなく、同じ専攻の友達とグループを組み、ポッドキャストのような音声配信もできたらいいなと思っている。今度「中日交流なんて意味ない！」という話をしている人に会ったら、裏でこっそりツッコミするのではなく、丁寧に話しかけて誤解を解きたい。

記念すべき45周年を迎えた2023年、世界の状況は45年前とは大きく変わっている。樹木は環境が変わると、木そのものに水と肥料をやらなければならない。「日中平和友好条約」という大木をこれからどのように育てていくのか、両国はその栽培方法を検討し続けなければならない。私もこの成長の役に立てたらとても嬉しい。

テーマ④ 特設テーマ、日中の友好都市交流について考える～滋賀県と湖南省をモデルに～

日中友好こそ世界平和の礎 —洞庭湖と琵琶湖の深遠な絆—

洪 健洋 (東華理工大学長江学院)

2023年は湖南省と滋賀県の友好姉妹関係締結40周年の記念すべき節目の年であり、生まれ抜きの湖南省っ子である私は、両省県の「友好都市交流」に強い関心を払っています。

湖南省は長沙市を省都とする中国中南部の省で、昔から「魚米の郷」という美称があります。東・西・南部の三方を山地に囲まれ、北部は洞庭湖がある山紫水明の地です。洞庭湖は昔から農業や漁業の盛んな地として知られています。一方、滋賀県は四方を山に囲まれ、湖南省と同じく内陸に位置し、県内には日本最大の湖の琵琶湖があります。また、古くから農業や漁業を主とする地域です。洞庭湖の瀟湘八景と滋賀県の近江八景が象徴するように、湖南省と滋賀県は深い縁があります。

1983年、中華人民共和国湖南省と日本国滋賀県は、両省県の友好姉妹関係を締結し、発展させるべく努力することを共に確認しました。それから早くも40年が経ち、この間、湖南省と滋賀県はさまざまな記念イベントを開催し、友好交流を深めてきました。友好提携を記念した「中国湖南省出土文物展」、「日本国滋賀県生活文化展」、「湖南省紹介展」などの展覧が盛大に開催されました。現在、両省県の地域間交流は友好儀礼的な相互訪問から、経済、環境保全、医療関係など、実質的な事業交流へと変化しつつあります。その中で、私が一番関心を寄せているのは農業・農村振興と環境保全の両立型の農業発展です。



先述の通り、両省県はともに農業が盛んな地域として知られています。洞庭湖は湖南省の農産にとって、琵琶湖は滋賀県の農産にとって、重要な存在です。洞庭湖はかつて、中国で最大の淡水湖である「八百里の洞庭」と呼ばれていましたが、高度成長期の化学肥料の過剰使用や埋め立てなどにより、面積が減少し、水質汚染が深刻化しました。調査資料によると、洞庭湖は最盛期の約6000平方キロメートルから約2820平方キロメートルに減少し、中国で2番目に大きな淡水湖となりました。地理の授業でそのことを学んだ時、とても驚き、胸が詰まりました。洞庭湖の水環境問題は一刻も早く解決しなければならないと感じました。一方で、琵琶湖も過去には深刻な水質悪化を経験しました。その際、県民が提唱した「石けん運動」によって、合成洗剤の代わりに粉石けんを使用することで環境問題が大幅に改善されました。

そして、2013年に湖南省は中国科学技術部の強力な支援のもと、滋賀県琵琶湖環境部下水道課・公益財団法人淡海環境保全財団と協力し、琵琶湖水質環境保全の経験と成果を自分たちの環境対策に導入しました。日本国際協力機構中華人民共和国事務所は琵琶湖の水環境改善の経験に基づいて、草の根技術協力プロジェクト「中国湖南省における都市污水处理場の運営能力の向上及び住民の環境意識の改善」及び「湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト」を実施しました。プロジェクトは6年間にわたり、都市の污水处理場を運営する技術者の育成、農村の既存の污水处理場設備の改善、環境教育の普及、住民の水環境意識の向上などに取り組んできました。琵琶湖の改善経験を活かしたことで、次第に洞庭湖の水質や生態系は良くなり、流域内の野生動物の数は増え続けています。これは非常に喜ばしい成果です。

また、2018年に滋賀県の三日月大造知事が長沙で記念事業の成果について発表しました。そこで洞庭湖と琵琶湖のそれぞれの水質や生態系が抱える課題について説明し、互いの現状や課題は共通していると述べました。知事は湖南省の発展モデルを学び、滋賀県がもっと協働できることがないかと考えているとのことでした。私も今後、両省県が水環境の改善についてより多くの経験から学び合い、洞庭湖と琵琶湖が地元の人々に幸福をもたらすことを期待しています。

湖南省と滋賀県の友好提携40周年を迎える今年、日中関係が洞庭湖と琵琶湖の深遠な絆のように、世代から世代へと受け継がれていくものと信じています。

機関関係

(1) 2022 (令和4) 年度事業・会議報告 (2022年4月1日～2023年3月31日)

2022 (令和4) 年

4月12日 (火)	事務局打ち合わせ (監査について)
15日 (金)	事務局打ち合わせ (会報28号配布について)
18日 (月)	事務局打ち合わせ (監査・専門委員会設置準備会の通知について)
22日 (金)	事務局打ち合わせ (決算について)、会計事務所と打ち合わせ
27日 (水)	事務局打ち合わせ (監査準備、理事会通知について)
5月6日 (金)	事務局打ち合わせ (監査について)
12日 (木)	2021 (令和3) 年度 監査 専門委員会設置についての準備会
18日 (水)	事務局打ち合わせ (第47回理事会準備について)
20日 (金)	第47回理事会
6月3日 (金)	第26回評議員会
20日 (月)	第48回理事会 (書面議決日)
24日 (金)	内閣府提出書類について会計事務所と打ち合わせ 内閣府へ書類提出
7月20日 (水)	事務局打ち合わせ
8月4日 (木)	事務局打ち合わせ
24日 (水)	第18回日本語作文コンクール審査結果の提出
9月12日 (月)	事務局打ち合わせ
14日 (水)	事務局打ち合わせ
10月12日 (水)	日中共同宣言50周年記念祝辞の交換
17日 (月)	事務局打ち合わせ
26日 (水)	執行役員打ち合わせ
11月28日 (月)	宋慶齡基金会との教育支援協定書の締結、支援費用100万円送金
12月12日 (月)	第18回中国人の日本語作文コンクール受賞者による日本語スピーチコンテストへ後援団体として参加

2023 (令和5) 年

1月23日 (月)	事務局打ち合わせ
2月13日 (月)	事務局打ち合わせ
18日 (土)	第5回日中教育文化交流シンポジウム
21日 (火)	第49回理事会 (書面議決日)
24日 (金)	2023年度予算案会計事務所と打ち合わせ
3月17日 (金)	第50回理事会 (書面議決日) 第27回評議員会 (書面議決日)
24日 (金)	内閣府へ事業計画書等の提出
27日 (月)	会報第29号発刊

(2) 2022 (令和4) 年度事業報告

中国宋慶齡基金会との「新たな教育交流プロジェクト」の推進確認のもとに、2021年度からの5か年計画として、河北省保定市阜平県における取り組みの推進を行いました。教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる草の根教育交流をより深く、多様に発展させることを目指して計画を進めました。2022年度には、「視察研修訪中団」の派遣、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れ準備と、「第5

回音楽教育交流会」の実施等の取り組みを進める予定でした。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行拡大の中で、実際に中国を訪問することもできず、宋慶齡基金会とのリモートによる協議の中で、やっと教育交流支援事業だけを実施しました。また、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪をも広げてきた、「第9回教育交流ホームステイ」事業についても、実施を見送らざるを得ませんでした。さらに、今年度こそは実施したいと考えていた、「田中一郎記念奨学基金」による、主に東南アジアからの留学生を対象とした、「留学生による日本語作文コンクール」は、残念ながら実施までこぎつけられませんでした。しかしながら、「第5回教育交流シンポジウム」の開催については、「日中教育交流の意義について、協会の今までの取り組みの検証も踏まえて考えよう」というテーマで、教育関係者を対象に実施しました。「第18回中国人の日本語作文コンクール」については、例年通り後援という形で参加し、作品の審査と「教育賞」受賞者の選定を行いました。また、リモートによる「スピーチコンテスト」にも参加しました。

1. 教育交流・派遣事業

2022年度は、「新たな教育交流プロジェクト」実施地の決定を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齡基金会との協議の中で行い、河北省保定市阜平県を「新たな教育交流プロジェクト」実施地として決定し、新5か年計画をスタートさせて2年目となりました。今年度こそは、中国宋慶齡基金会と連絡を取り合い、本来ならば、新5か年計画の初年度早々に行っていた事務局レベルの派遣を実施し、その後に視察研修訪中団を候補地に派遣し、当財団と中国宋慶齡基金会そして現地の教育局との協議の中で、「新たな教育交流プロジェクト」の具体的な内容について決定していきたいと考えていました。しかしながら、「コロナ禍」の中で、そういった計画の実施はかないませんでした。

2. 教育交流・受入事業

「新たな教育交流プロジェクト」の実施地が決定しましたが、派遣事業と同様に、交流の具体的な内容については、残念ながら協議できませんでした。「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」については、今までの教育交流受入事業の実績を踏まえ、より意味ある形で実施できるように検討していこうということになりました。中国においては、まだまだ地域格差の問題が教育にも大きく影響を及ぼしているようです。そうした中で、「日本に学びたい」という要望が非常に大きいと聞いています。民間教育交流の原点を踏まえて、河北省保定市阜平県における、「新たな教育交流プロジェクト」の5か年計画においても、教育交流団の受け入れについて計画していきたいと考えています。

3. 教育交流・支援事業

「新たな教育交流プロジェクト」の実施地の教育局・学校側との話し合いを通じて、意味ある教育交流支援を行っていかうと考えて取り組みました。音楽教育実践への支援ということで、具体的な要望を踏まえて行いました。支援の規模としては、河北省保定市阜平県における、「新たな教育交流プロジェクト」においても、前回の東平県における5か年計画と同じように、2年次である今年度も、宋慶齡基金会と協定書を結び、主に楽器の購入にあてるために100万円の支援を行いました。

4. 教育交流・研究等助成事業

- ①「第9回教育交流ホームステイ」については、この間積極的に協力いただいているフジ国際語学院等とも協議を重ねましたが、新型コロナウイルス感染拡大にかかわる様々な影響（留学生が日本に来られない等）で、「今年度も実施困難」という結論になりました。草の根教育交流として大きな意味を持っている取り組みなので、中止は非常に残念でしたが、しかたがありませんでした。
- ②新たな事業として計画しましたが昨年度は実施できなかった、「田中一郎記念奨学基金」を利用した「留学生による日本語作文コンクール (仮称)」については、残念ながらこれも「コロナ禍」で具体的な取り組みまでには進みませんでした。
- ③「第5回日中教育文化交流シンポジウム」については、「日本語作文コンクール」ともうまく関わりを持たせながら開催してきましたが、昨年度と同様に、作文コンクールの最優秀賞者が中国から来日できない等留学生も参加しての学習会が今まで通りに開催できるよう条件が整いませんでした。そこで、今年度は、今までの、「日本語作文コンクール」とのコラボレーションという形をやめ、日中教育交流の歴史や現状その意

義、そして今後の展望や課題に焦点を当て、研修会的な要素を入れながらのシンポジウムとして実施しました。今回は、学習会・研修会という意味合いが強かったので、シンポジストの3名の方々には、それぞれの立場から沢山の示唆をいただきました。初岡昌一郎さんからは、中国の近現代史の解説を踏まえながら、そこに流れている日中の人的・政治的・文化的関わりや交流について、具体的なお話を伺いました。朱天嬌さんからは、自身と日本との関わり、中国での日本語学習そして日本への留学・就職を通して感じたこと考えたこと等、まさに身を持っての日中教育文化交流について話していただきました。黒田文男さんには、当協会と宋慶齡基金会等との交流の経過について、自身の活動と感想について話していただきました。特に、基金会との初めての共同プロジェクトだった易県との音楽教育を通しての教育交流についてのお話を伺いました。シンポジストのお話の後、参加者からの質問・意見・感想等を受け、大いにシンポジウムの中身を深めることができました。日中教育交流を民間レベルで続けることの意義が、そして当協会の活動の必要性が、全体を通して確認できました。

- ④「第18回日本語作文コンクール」については、今年度も協会は積極的にこの事業を後援し、審査に加わりました。今回の作文コンクールのコンセプトは「日中国交正常化50周年を思う」。これに沿ったテーマおよびテーマごとの応募数は、①日中両国民の親近感を高めるために私ができること（1456本）、②街中にあふれる誤訳を減らそう——私の解決策（285本）、③日本語を教えてくれた先生への「感謝状」（737本）、④コロナ禍で暮らす——共に闘う三年目の記録（884本）となりました。教育賞・日中国際教育交流協会賞（5万円相当）は、テーマ：日中両国民の親近感を高めるために私ができること「一生かけてやりたいこと」周美彤（広東理工学院）と、テーマ：コロナ禍で暮らす——共に闘う3年目の記録「無力感との闘い、私の行動」黎芷妍（復旦大学）でした。

5. その他の活動

- ①今年度は通常の理事会を4回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染予防措置として、年度末の理事会・評議員会はすべて書面議決となりました。
- ②広報関係では、2023年3月に『会報29号』を発行しました。「共生力」は、コロナ禍で具体的な取り組みができなかったため発行しませんでした。
- ③財政確立に向けての賛助会員の取り組みは引き続き行い多くの協力を得ました。

(3) 2023（令和5）年度事業計画案

新型コロナウイルス感染拡大の中で、今年度も昨年度と同様に、教育交流派遣事業・支援事業・受入事業・研究等助成事業について、当初計画したことがほとんど実行できませんでした。しかしながら、困難な状況下にあっても、来年度こそは、中国宋慶齡基金会との「教育交流プロジェクト」の推進を中心に、派遣・受入れ・支援の「草の根教育交流」をより深く多様に発展させることを目指して、取り組みを進めて参りたいと考えています。過去8回にわたって積み上げてきた中国人留学生と日本の教職員家庭との友好を深める「教育交流ホームステイ」事業や、日中の青年たちの交流を通しての友好・相互理解の輪をも広げて成果を積み上げてきた「教育文化交流シンポジウム」等、その大きな成果や意義を踏まえ、これらの取り組みを途絶えさせないように考えています。

協会の持続可能な活動を発展させるため、2023（令和5）年度は下記の教育交流事業を推進します。

1. 教育交流・派遣事業

- ①「新たな教育交流プロジェクト（河北省保定市阜平县との教育交流）」の実施内容を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齡基金会との協議の中で行います。
- ②「新たな教育交流プロジェクト（河北省保定市阜平县との教育交流）」の実施内容を決定し速やかな実施を図るために、「財団事務局」「視察研修訪中団」の派遣を行います。

2. 教育交流・受入事業

- ①第6次宋慶齡基金会教育交流代表団の受け入れについて検討していきます。
- ②中国教育国際交流協会、中国宋慶齡基金会、教育工会及びその他の教育諸団体が派遣する団体との教育交流、

及び学校参観などの受入れ手配等を行います。

3. 教育交流・支援事業

- ①3年次となる教育交流支援を、「新たな教育交流プロジェクト（河北省保定市阜平县との教育交流）」のもとに行います。

4. 教育交流・研究等助成事業

- ①第9回教育交流ホームステイを実施します。
- ②「留学生による日本語作文コンクール（仮称）」を実施します。
- ③教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させるため、第6回日中教育文化交流シンポジウムを開催します。
- ④第19回日本語作文コンクール（日本僑報社・日中交流研究所主催）の後援を継続します。

5. 機関運営などに関して

- ①理事会、評議員会を年2回、監査委員会を年1回、各委員会、事務局会を随時行います。
- ②年会報30号を発行します。また、『共生力』を随時発行します。ホームページの充実を図ります。
- ③事業推進に関する理解を図りながら会員を拡大し、よって財政基盤の確立を図るために、引き続き組織的な取り組みを進めます。
- ④財団の将来へ向けての在り方を検討するために、専門委員会を設置します。

(3) 2023 (令和5) 年度収支予算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位:円)

科 目	5年度予算案額	4年度予算案額	4年実績見込み	増減 A-B	備 考
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
① 基本財産運用収入	600	600	600	0	
基本財産運用収入	600	600	600	0	
② 特定資産運用収入	1,292	1,292	0	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金	193	193	0	0	
(公2)訪日受入事業準備資金	110	110	0	0	
(公3)教育交流支援費用準備資金	85	85	0	0	
(公4)田中一郎記念奨学基金	904	904	0	0	
(共通)教育交流積立金	0	0	0	0	
③ 会費収入	7,141,000	7,141,000	7,037,000	0	
1. 団体会費収入	6,940,000	6,940,000	6,840,000	0	
2. 個人会費収入	95,000	95,000	95,000	0	
3. 賛助会費収入	106,000	106,000	102,000	0	
④ 寄付金収入	0	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	0	
特別寄付金収入	0	0	0	0	
⑤ 事業収入	140,000	140,000	0	0	
1. 教育交流・派遣事業	0	0	0	0	今回は参加費徴収なし
2. 教育交流・受入事業	0	0	0	0	
3. 教育交流・支援事業	0	0	0	0	
4. 教育交流・研究助成事業	140,000	140,000	0	0	20,000×7(ホームステイ)
⑥ 雑収入	73	73	460	0	
雑収入	0	0	0	0	
受取利息	73	73	460	0	
事業活動収入合計	7,282,965	7,282,965	7,038,060	0	
2. 事業活動支出					
① 事業費支出	8,216,500	8,216,500	4,383,840	0	
(1) 教育交流・派遣事業	4,347,000	4,347,000	240,000	0	総額の12分の3
1. 役員報酬	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の3
2. 給料手当	300,000	300,000	300,000	0	会議会場費 飲物代など
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等、土産代
4. 交際費	30,000	30,000	0	0	訪中(打合せ4名・視察10名)・職員交通費(3か月)
5. 旅費交通費	3,500,000	3,500,000	10,500	0	訪中(打合せ4名・視察10名)・職員交通費(3か月)
6. 通信運搬費	45,000	45,000	38,396	0	保守料金・電話料金(3か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	25,000	25,000	3,630	0	ゼロックスアカウント料(3か月)
9. 賃借料	135,000	135,000	132,990	0	総額の約12分の3
10. 委託費	0	0	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	50,000	50,000	0	0	
14. 雑費	20,000	20,000	0	0	
(2) 教育交流・受入事業	517,000	517,000	485,285	0	総額の12分の2
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	交流会議 打合せ 会場費など
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	
5. 旅費交通費	7,000	7,000	7,000	0	職員交通費(2か月)
6. 通信運搬費	30,000	30,000	24,430	0	保守料金・電話料金(2か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	25,000	25,000	5,195	0	ゼロックスアカウント料(3か月)
9. 賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10. 委託費	1,000	1,000	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	交流会議 打合せ 会場費など
12. 研究助成費	0	0	0	0	訪日に関わる諸費用等
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	1,000	1,000	0	0	
(3) 教育交流・支援事業	1,529,500	1,529,500	1,497,326	0	総額の12分の2
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	打合せ 委員会 参加者会議 会場費など
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	職員交通費(3か月)
5. 旅費交通費	10,500	10,500	10,500	0	保守料金・電話料金(3か月)
6. 通信運搬費	45,000	45,000	24,530	0	
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	10,000	10,000	3,636	0	ゼロックスアカウント料(3か月)
9. 賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10. 委託費	1,000	1,000	0	0	
11. 教育支援費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	宋慶齢基金会との共同プロジェクト
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	10,000	10,000	10,000	0	送金手数料など
(4) 教育交流・研究等助成事業	1,312,000	1,312,000	1,304,925	0	総額の12分の2
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	研究会 打合せ 会場費など
3. 会議費	100,000	100,000	50,688	0	事務所来客用お茶、土産等
4. 交際費	5,000	5,000	0	0	職員交通費(2か月) ホームステイ、シンポジウム旅費等
5. 旅費交通費	95,000	95,000	449,960	0	保守料金・電話料金(2か月)
6. 通信運搬費	30,000	30,000	24,508	0	
7. 消耗品費	1,000	1,000	3,413	0	

科 目	5年度予算案額	4年度予算案額	4年実績見込み	増減 A-B	備 考
8. 印刷製本費	10,000	10,000	4,463	0	ゼロックスアカウント料(3か月)
9. 賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10. 委託費	0	0	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	550,000	550,000	289,492	0	作文コンクール・ホームステイ・シンポジウム(懇親会含む)など
13. 謝金	70,000	70,000	33,411	0	シンポジウムパネラー、講師謝金
14. 雑費	1,000	1,000	330	0	
共通	511,000	511,000	370,788	0	
1. 役員報酬	0	0	0	0	
2. 給料手当	0	0	0	0	
3. 会議費	10,000	10,000	0	0	研究会 打合せ 会場費など
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
5. 旅費交通費	100,000	100,000	85,541	0	役員国内交通費 委託先訪問時ほか
6. 通信運搬費	100,000	100,000	58,480	0	切手代 賛助会費発送代 封筒代 資料送付等
7. 消耗品費	20,000	20,000	0	0	
8. 印刷製本費	250,000	250,000	200,000	0	年会報印刷代
9. 賃借料	0	0	0	0	
10. 委託費	30,000	30,000	26,767	0	HP使用料 ト・メイン使用料
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	0	0	0	0	
② 法人費支出	2,261,000	2,261,000	2,158,125	0	
1. 役員手当報酬支出	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の3
2. 給料手当支出	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の3
3. 法定福利費支出	5,000	5,000	3,750	0	
4. 会議費支出	70,000	70,000	77,215	0	理事会 評議員会等会場費 打ち合わせなど
5. 交際費支出	50,000	50,000	11,000	0	慶弔費など
6. 旅費交通費支出	450,000	450,000	448,420	0	理事会 評議員会旅費など
7. 通信運搬費支出	45,000	45,000	37,402	0	保守料金・電話料金(3か月)
8. 消耗什器備品費支出	10,000	10,000	0	0	パソコン資金など
9. 消耗品費支出	10,000	10,000	9,786	0	修繕費を含む
10. 印刷製本費支出	1,000	1,000	0	0	
11. 賃借料支出	215,000	215,000	211,464	0	総額の約12分の3更新料、家財保険料、保証料他
12. 租税公課支出	5,000	5,000	1,700	0	
13. 委託料支出	830,000	830,000	794,200	0	日本パートナーズ会計など
14. 雑支出	30,000	30,000	23,188	0	
事業活動支出合計	10,477,500	10,477,500	6,541,965	0	
事業活動収支差額	-3,194,535	-3,194,535	496,095	0	
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
① 基本財産変更差額収入	0	0	0	0	
基本財産変更差額収入	0	0	0	0	
② 特定資産取崩収入	4,200,000	4,200,000	1,800,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金	400,000	400,000	0	0	取り崩したが、未実施のため戻入予定
(公2)訪日受入事業準備資金	2,000,000	2,000,000	0	0	取り崩したが、未実施のため戻入予定
(公3)教育交流支援費用準備資金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金	800,000	800,000	800,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学基金	0	0	0	0	
(共通)教育交流積立金	0	0	0	0	
投資活動収入計	4,200,000	4,200,000	1,800,000	0	
2. 投資活動支出					
① 特定資産取得支出	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	
(公1)訪中派遣費用準備資金	600,000	500,000	500,000	100,000	
(公2)訪日受入事業準備資金	500,000	500,000	500,000	0	
(公3)教育交流支援費用準備資金	0	0	0	0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金	0	0	0	0	
(公4)田中一郎記念奨学基金	0	0	0	0	
(共通)教育交流積立金	0	0	0	0	
② 固定資産取得支出	0	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	0	
③ その他の支出	0	0	0	0	
解約金	0	0	0	0	
投資活動支出計	1,100,000	1,000,000	1,000,000	100,000	
投資活動収支差額	3,100,000	3,200,000	800,000	-100,000	
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計	0	0	0	0	
2. 財務活動支出					
財務活動支出計	0	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	0	
IV 予備費支出					
当期収支差額	-94,535	-194,535	1,296,095	-200,000	31年実績:PC購入
前期繰越収支差額	4,100,000	3,800,000	4,013,552	300,000	
次期繰越収支差額	4,005,465	3,605,465	5,309,647		
V 当期一般正味財産増減額の部					
一般正味財産期首残高(見込概数)	64,020,000	62,420,000	1,600,000		
一般正味財産期末残高(見込概数)	60,825,465	59,225,465	1,600,000		
VI 当期指定正味財産増減額の部					
指定正味財産期首残高	0	0	0		
指定正味財産期末残高	0	0	0		
VII 正味財産期末残高(見込概数)					

(5) 2023 (令和5) 年度役員・評議員・公益事業審査員名簿

公益財団法人日本中国国際教育交流協会 理事・評議員・監査・顧問・公益事業審査委員

< 2024 (令和6) 年3月1日現在 >

評議員 (8名)

- 井上定彦
- 大川正勝
- 黒田文男
- 角田達夫
- 野村隆之
- 原和之
- 別所勝也
- 山中小白

監事 (2名)

- 鈴木伸昭
- 山門真

公益事業審査委員 (5名)

- 初岡昌一郎
- 樋口弘夫
- 田中正志
- 原和之 (評議員)
- 赤岡直人 (理事)

理事 (7名)

- 赤池浩章
- 赤岡直人 (業務執行理事)
- 天野博史
- 伊藤功
- 島崎直人
- 中村武志 (代表理事)
- 前寫徳男

顧問 (2名)

- 興石東
- 生井榮一

協会の歩み

設立 1991年1月
 1992年財団法人認可
 2010年8月5日公益財団法人認定
 公益財団法人移行 2010年8月9日
 創立者 田中 一郎 (初代理事長)
 理事長 生井 榮一 (第2代)
 代表理事 黒田 文男 (第3代)
 代表理事 中村 武志 (第4代2020年6月~現在)

教育交流・派遣事業

- 1992 私立学校教職員訪中団 (北京、大連)、第1次教育訪中団 (北京、杭州。李鉄映国家教育委員会主任と会見)
- 1993 第2次教育訪中団 (北京、瀋陽、撫順、大連。倪全人代常務副委員長会見)
- 1994 第3次訪中団 (昆明、成都)
- 1995 第4次教育訪中団 (ウルムチ、トルファン)、協会理事訪中団 (北京。国家教育委員会、中国教育国際交流協会訪問)
- 1996 第5次教育訪中団 (済南・青島、蘇州)
- 1997 第6次教育訪中団 (日中国交正常化25周年、財団設立5周年記念北京、天津、常州、蘇州。朱国家教育委員会主任と会見)
- 1998 第7次教育訪中団 (北京、ハルビン、長春)
- 1999 第8次教育訪中団 (南京、杭州、上海)
- 2000 第9次教育訪中団 (昆明、大理、麗江)
- 2001 第10次教育訪中団 (西寧、西安)
- 2002 第11次教育訪中団 (日中国交正常化25周年記念。南寧、桂林)
- 2004 第12次教育訪中団 (北京、承德)
- 2006 第13次教育訪中団 (北京、天津)
- 2007 第1期安東自由大学参加団 (韓国・安東市)
- 2008 第14次教育訪中団 (北京、河北省易県)
第2期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
- 2009 第3期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
- 2010 第15次教育訪中団 (北京、河北省易県)
- 2011 第5期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
- 2012 第6期安東自由大学参加団 (韓国・安東、大邱、ソウル)
- 2013 第7期安東自由大学参加団 (韓国・安東、ソウル)
- 2014 第16次教育訪中団 (上海・南京)
- 2015 視察研修訪中団 (北京・泰安市東平県)
- 2016 第1回日中音楽教育交流会 (北京・泰安市東平県)
- 2018 第17次教育訪中団 (北京・泰安・青島) 第3回日中音楽教育交流会 (泰安市等東平県)
- 2019 視察研修訪中団 (北京)

教育交流・受入事業

- 1992 中国教職員訪日代表团 (東京、三重、神奈川、愛知、茨城、山梨、千葉、静岡)
- 1993 寧波市訪日団 (東京、茨城、群馬、千葉)、常州市訪日団 (兵庫、福井、三重)、寧夏自治区訪日団 (愛知、富山、新潟)、中国教育国際交流代表团 (東京、神奈川、静岡、神奈川、京都、奈良、兵庫、大阪。赤松文

- 相と会談)
- 1994 江蘇省小学校長訪日団 (神奈川、山梨、静岡)
- 1995 湖南省訪日団 (愛知、静岡、三重)、蘇州市訪日団 (千葉、神奈川、山梨)
- 1996 モンゴル赤峰市職業教育代表团 (東京、北海道)、常州市訪日団 (千葉、山梨、東京) 卒業生就職指導訪日団
- 1997 日中国交正常化25周年、財団設立5周年記念教育交流訪日団 (東京、愛知、三重)
- 1998 蘇州市・昆山市訪日団 (東京、福井、千葉) 常州市訪日団 (東京、山梨、三重、京都、奈良、大阪)
- 1999 北京市第二実験小学校訪日団 (東京、神奈川、京都、大阪) 中国優秀教師訪日団 (東京、静岡)
- 2000 雲南教育学会訪日団 (東京、山梨、千葉)
- 2001 中国教育交流訪日団 (東京、山梨、奈良、京都、大阪)
- 2002 中国特殊教育工作者代表团 (東京、三重)
- 2003 北京市崇文区教育関係者訪日団 (東京、山梨)
- 2006 協会設立15周年記念中国教育国際交流訪日団 (東京) 遼寧省体育訪日団 (東京、神奈川、滋賀、大阪)
- 2008 中国宋慶齡基金会教育代表团 (第1次) (東京、静岡、愛知、京都)
- 2009 中国宋慶齡基金会李寧秘書長、協会を訪問
- 2011 協会設立20周年記念中国教育国際交流協会訪日団、中国宋慶齡基金会教育代表团 (第2次) (東京、神奈川)
- 2012 中国宋慶齡基金会唐開生副主席、協会を訪問
- 2013 第3次宋慶齡基金会教育交流代表团 (三重、京都)
- 2017 第4次宋慶齡基金会教育交流代表团 (静岡) 第2回日中音楽教育交流会 (静岡)
- 2019 第5次宋慶齡基金会教育交流代表团 (山梨) 第4回日中音楽教育交流会 (山梨)

教育交流・支援事業

- 1996 雲南省災害教育復興資金 (100万円) を贈る。
- 1998 長江水害見舞金 (100万円) を中国教育国際交流協会を通じて贈る。松花江水害見舞金 (50万円) を黒龍江省教育委員会を通じて贈る。
- 2006 協会代表、中国宋慶齡基金会、河北省易県を訪問。
- 2007 生井理事長が中国宋慶齡基金会胡啓立主席と会談。河北省易県小学校へ机椅子600セット及び電子キーボード40台 (総額200万円) の教育支援及び音楽教師養成セミナー支援。協定書締結。
- 2008 四川大地震に対し、見舞金 (100万円) を中国教育国際交流協会を通じ四川教育国際交流協会へ。同じく見舞金 (50万円) を宋慶齡基金会を通じて贈る。また、ミャンマーサイクロン被害見舞金 (50万円) をビルマ日本事務所を通じて送る。日本教育公務員共済会より易県教育支援に関し、本部奨励金 (100万円) を受ける。
- 2009 第1回音楽教師養成セミナー参加 (北京、河北省易県)
- 2010 第2回音楽教師養成セミナー支援・参加 (70万円)
- 2011 第3回音楽教師養成セミナー支援・参加 (100万円)。東日本大震災支援「こども音楽再生基金」へ寄附 (100万円)。
- 2012 協会代表 (黒田代表理事) 以下4名が中国宋慶齡基金

- 会（李寧秘書長）、中国教育国際交流協会（林佐平副秘書長）、中国教育科学文化衛生体育工会（万民東主席）を訪問。第4回音楽教師養成セミナー支援（250万円）。
- 2013 第5回音楽教師養成セミナー支援（200万円）（黒田代表理事、会員代表ら8名参加）。
- 2014 協会代表（黒田代表理事）以下3名が中国宋慶齡基金会（井頓泉副主席）、中国教科文衛體工會全國委員會（白立文國際代表）を訪問。第5回音楽教師養成セミナー支援（100万円）送金。
- 2015 協会代表（黒田代表理事）以下3名が中国宋慶齡基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2016 協会代表（黒田代表理事）以下6名が中国宋慶齡基金会（井頓泉副主席）を訪問。山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2017 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2018 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2019 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）。
- 2021 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）。
- 2022 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）。

教育交流・研究等助成事業

- 1995 中国人日本留学生に奨学奨励金制度を設ける
- 1997 協会設立5周年記念教育交流集会・レセプション（東京）
- 1999 韓国中学校教育協議会名誉会長嚴圭白博士と田中会長・理事長会見
- 2001 中国教育国際交流協会20周年式典で、田中会長・理事長が顧問に就任。協会設立10周年記念教育交流集会（文部省後援、東京）
- 2002 日中国交正常化30周年記念教育交流集会・レセプション（文科省・中国大使館教育処後援、東京）
- 2006 協会設立15周年記念教育交流集会・レセプション（文部省・中国大使館教育処後援、東京）
- 2007 第3回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
- 2008 第4回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
- 2009 第5回「中国人の日本語作文コンクール」後援。
- 2010 第6回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2011 第7回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンツ協賛。
- 2012 第1回教育交流ホームステイ（in 山梨）実施。第8回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンツ協賛。
- 2013 第2回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第9回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2014 第3回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第10回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2015 第4回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第11回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第1回日中教育文化交流シンポジウム開催。
- 2016 第5回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第12回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第2回日中教育文化交流シンポジウム開催。

- 2017 第6回教育交流ホームステイ（in 千葉）。第13回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第3回日中教育文化交流シンポジウム開催。
- 2018 第7回教育交流ホームステイ（in 山梨）。第14回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第4回日中教育文化交流シンポジウム開催。
- 2019 第8回教育交流ホームステイ（in 神奈川）。第15回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2020 第16回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2021 第17回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
- 2022 第18回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第5回日中教育文化交流シンポジウム開催。
- 2023 第19回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。第6回教育文化交流シンポジウム開催。

（2024年3月現在）

公益財団法人日本中国国際教育交流協会とは

◆日本中国国際教育交流協会は

1991年に創立。東アジアの豊かな未来を実現するために、日本と中国を柱として、教育交流事業を進めています。子どもや教育の持つ「共生力」に限りない期待を寄せています。

◆公益財団法人とは

広く公益に資する事業を進めている法人として2010年内閣府から認定を受けました。公益法人は、寄付金に税はかからないので、支援がしやすいのが特徴です。

◆教育交流は4つの分野で

1 派遣

教育に関心のある人たちによって構成された協会が派遣する団で、学校見学、授業の交流、子どもや教職員との交流を行い、未来の東アジアを地球規模で考えます。

2 受入

諸外国からの教育関係の訪日団を受け入れ、学校訪問等を行い、教職員や子どもたちとの交流を深めています。訪日団の希望に沿って、教育現場の協力を得た研修への参加ができます。

3 支援

教育困難地域の学校に、机や椅子などの学校備品のほか、電子キーボードなどの教育機器を送っています。また送った機器を使って授業が進められるための研修を支援しています。支援を受け入れる団体は、行政または信頼のおける団体です。

4 研究等助成

田中一郎奨学基金を設立し、東アジアを中心に国際的な教育交流を担う人材を育成します。また、「日本語作文コンクール」「教育交流ホームステイ」などを通して、海外や日本で日本語を勉強している若者の学習を助成しています。

◆東アジアでのこの素敵な教育交流への参加をお待ちします。

個人会員	年会費	一口	5,000円
団体会員	年会費	一口	10,000円
賛助会員	年会費	一口	3,000円
寄付金	随時		

会員、寄附をされた団体・個人には、協会の年会報、「共生力」（随時発行の会報）、海外派遣への先行連絡、イベントのご案内などを差し上げます。

【編集後記】

2023年度は、残念ながらコロナ禍後の影響で、予定していた活動のほとんどが実施できませんでした。今年に入り、「来年度こそは」と、少しずつ見えてきていますので、2024年度こそは、と願っている毎日です。世界各地で、戦争・内乱・圧政・災害・飢餓・環境破壊等が起こり、極端な人権侵害が続いています。そうした中、本来、「人々の平和で安心な生活」を希求すべき政治は混乱が続き、格差と分断を助長し、我が国を含め世界的に不安定さを増しています。まずは人権の観点に立って、今後の展開について注視していかななくてはならないと考えています。

不安定な世界情勢の中にあって、日中の教育交流を基軸とする当協会の事業については、大きな意義を持つ取り組みとして、関係方面から評価されています。中国宋慶齡基金会との「新たな5か年計画プロジェクト（河北省保定市阜平県との教育交流）」につきましては、2024年度は4年目を迎えます。残念ながら、訪中等の具体的な活動に移ることができていません。「今年こそは」と、決意しているところです。

「世界の平和、人類の共生のために、しっかりとした民間レベルでの人と人とのつながりをつくる」、そんな東アジアを中心とする教育交流事業の推進に、これからも努力を重ねて参りたいと考えています。ご理解・ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

■公益財団法人日本中国国際教育交流協会【会報第30号】

2024年（令和6年）3月25日発行

発行人…中村武志 表紙題字…田中一郎（創立者） 印刷…（株）アートプリント
〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16 甲府丸の内マンション302

Tel.055-269-6533 Fax.055-269-6534

HP : <http://ajciee.or.jp/>